

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

July / 12 / 2013 # 4

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『古楽器』

[2] Pepeのひとりごと

『Allegretto』

[3] おすすめ動画

『Alison Balsom - Italian Concertos』

『DOOIALLYnASTICS - Hakan Bjorkman -

Stockholm Brass Band』

[4] 演奏のヒント！

『ちょっとしたことで』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『古楽器』

古楽器と聞いて、みなさんはどのような楽器を思い浮かべますか？もちろん自分の吹いている、もしくは自分と関連深い楽器の古楽器になると思いますが、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ吹きにはセルパンやオフィクレイド、サクソバットなどが出てくると思います。

僕もサクソバットが欲しいのですが、高いんですよね・・・（笑）。
去年の夏、パリで開催された「International Trombone Festival(ITF)」
に参加した際に、いろいろと試奏をしてきましたよ。

サクソバットと一言と言っても時代によって少し違いがあるため、
どれを買うか？というのは、「どういう人たちとどういう時代のもの
（曲）を演奏していくのか」で変わってくるんですよね。

と、僕がサクソバットに興味を持っているのはもう何年も前からのこと
なのですが（笑）、最近、世界中で古楽器に関する活動がすごく広がっ
てきています。

親友の一人、ハンガリーを拠点に世界中で活躍するチューバ奏者のRoland(Szentpali
氏)はその中でも筆頭となっている一人で、直接話を
聞いた時もすごく勉強させてもらったし、離れていても彼のアップ
している動画などで勉強ができています。

これは、彼が古楽器を演奏している一つの動画です。
（彼は、この他にもオフィクレイドなどで演奏している動画をアップ
しています）

『De Fesch Sonata played by Roland Szentpali』
<http://www.youtube.com/watch?v=zAV-0YmrUEU>

ちなみに僕は、これが本当のCimbasso（チンバツソ）だということを
この動画で初めて知りました・・・。
Cimbassoとはこの楽器のことをいうんですって。
みんなで一緒に勉強していきましょうね！

Rolandはなんでも簡単に吹きこなすので、動画を見ても簡単
そうに感じますが、フィンガリング（運指）や音程など、ものすごく
大変なようです。
セルパンなんて、会場の温度や湿度で音程がすごく変わってくるそうで、
臨機応変に運指を変えて演奏しているそうですよ・・・（汗）。
そんなことを聞くと吹きたくなくなってくる??（笑）

古楽器吹き同士が集まると、必ず運指の話をしているように思います。
みんな大変なようですよ。

日本はまだまだ楽器のメーカーやら歴史の話に花が咲く段階のよう
ですが、最先端を行っている人たちはその先を進んでいるようです（僕自身
がその最先端にいないため未確認なだけなので、実際には日本でも
最先端の人たちの間での会話はこのような感じなのかもしれません。

あくまで僕の持っている情報でのことですので、悪しからず)。
ああ、僕もいつかそんな中に混じりたいなあ・・・(笑)。

サクバットもいろいろな人が演奏していて、とても上手な演奏がCD
などで聴くことができます。

フランスの「La Sacqueboute」という有名なサクバットのアンサン
ブルグループなどは、数枚CDを出していると思いますよ(僕は1枚しか
持ってませんが・・・)。

興味のある人はぜひいろいろな演奏を聴いてみてくださいね!
音楽の楽しみ方がぐんと広がると思います!

去年参加したITF(International Trombone Festival)で、サクバットの
レッスンも聴講しました。
内容は、楽器を吹くことに関してはほとんどなく、ほとんどがその時代
に合わせたスタイルに関してでした。
とてもいい勉強になりましたよ。

モダン楽器(現代の楽器)でそういう時代の曲を演奏する機会はまだまだ
ありますが、そのあたりのバランスの取り方などはとても考えさせられ
ますね。

スタイルだけ合わせても、使っている楽器があまりにも合っていないと
よくないし・・・。

昔の曲を演奏する感覚が、それから随分と変わったのは確実です。
まだまだこれからも勉強し続けていきたいと思っています。

[2] Pepeのひとりごと

『Allegretto』

Allegretto (アレグレット)。

音楽(楽曲)のテンポ速度を表す表現の一つですね。

意味は、Allegro (アレグロ=速く)の意味を少し弱めたもの。要するに
「Allegro (アレグロ)よりは少し遅く」という意味です。

今日は、ふとあるときに考えたことについて書いてみようと思います。

何が言いたいのかというと、メトロノームでのテンポ指示がない場合の
このAllegrettoなどの表記があったときのテンポの設定についてです。

シンプルにいうと、こういう時のテンポの設定でその人の音楽感や
音楽性、教養やセンス、果てには好みや性格までわかってきたりします

(笑)。

考えようによってはとても難しいことですが、逆に捉えると、自分のこと（個性）が出しやすい状況ですね。

ただ単純に一般的なAllegroの速さから少し遅くするのもあり、曲の雰囲気やその前後のテンポ設定に合わせて速めにしたり遅めにするもよし、拍子やリズムのことを考えて、それらがうまく生きる適度なテンポを選ぶのもありだと思います。

僕は、最後に書いたようにやっていると思います。

「どのテンポで演奏するのか？」という捉え方ではなく、「この曲（やメロディー、響きなど）をうまく活かすためにはどのテンポが最適なのか？」ということ、指示されたテンポの範囲内で選ぶようにしています。

みなさんはどのようにしていますか？

僕の勝手な予想なのですが、今までいろいろな国の人とか関わってきた経験から思うに、日本人たちはとても真面目なので、きちんとメトロノームを使ってAllegrettoの範囲からはみ出さないことをまず考えてからテンポを決めていくような気がします。

個人的に、僕は「テンポはある程度の目安として捉えてもいい」と考えています（もちろん曲や曲想によるので一概には言えませんが）。

提案したいこととして、ぜひこれからはその楽曲のこと（メロディーや響きから感じ取れる雰囲気）を一番に考えてもらい、次のステップとしてその指示されたテンポの範囲内でテンポ設定を考えてもらえたら、と思っています。

テンポの表示がはっきりと数字で書かれている場合でも、これまでの僕の経験によると、作曲家自身が「どうしてもこのテンポで！」という場合と、「あ、適当にそのくらいで（笑）」という場合との2つに分かれているように思います。

これは「作曲家による」ということでもなさそうですよ。

同じ人でも、曲によってははっきりと指定したりあいまいだったりすることがありました（テンポが数字で書いてある場合でも）。つまりは「楽曲によること」が多いようです（あくまで僕自身の作曲家との関わりの経験からの考えです）。

僕が基準にしていることの一つとして、アナログのメトロノーム（いわ

ゆるカチカチ振り子で動くタイプのもの) にはない数字でテンポが指定されている場合には、ある程度その数字のテンポを守るようにしています。

理由は簡単で、アナログにないテンポをわざわざ指定するからには、そのテンポにこだわりがあるのかなぁ？と思って（笑）。

もちろん、これからはデジタルでしょ！という感覚で書いている人も多くいると思いますので、これはあくまで基準の一つですがね（笑）。

結局ここに戻るのですが、一番大切にしているのは「その楽曲に最適かどうか」「その楽曲が活きるテンポかどうか」を最重要視しています。

これからの演奏活動、音楽活動において、テンポ設定をぜひいろいろな角度から考えてみてくださいね。同じ曲でもいろいろな表情が見えるようになると思います。

音楽演奏には（いい意味での）「自由」が与えられているのですから！

[3] おすすめ動画

『Alison Balsom - Italian Concertos』

http://www.youtube.com/watch?v=ds_5cLu4FUk

今回紹介するのは、イギリスのAlison Balsomさんです。彼女の演奏にはとても人間らしさを感じることができ、音楽の作り方もとても共感できる部分があるので、僕は大好きです。

この場合の「人間らしさ」というのは、「超人的な人間離れした感覚」ではないということです（笑）。

反対の例（超人的な人間離れした感覚）を挙げるとすると、同じくTrumpetのAllen Vizutti氏でしょうか（笑）。

彼の演奏も好きですが、あまりにもテクニクに驚愕してしまって、同じ人間として見れない時がたびたびあるんですよね（笑）。

Alisonさんは、Trumpetだけではなく、古楽器もとてもきれいに演奏するようです。

いやあ、やっぱりみんないるんなことをやってるんですねえ・・・。
モダン楽器が上手な人はほぼ間違いなく古楽器の演奏もとっても上手です。

やっぱり僕も見習って始めてみようかな・・・。

彼女が演奏している古楽器の動画もついでにどうぞ！

<http://www.youtube.com/watch?feature=endscreen&NR=1&v=Wa2vzx-aNrw>

『DOOIALLYnASTICS - Hakan Bjorkman - Stockholm Brass Band』
http://www.youtube.com/watch?v=gmJHK_y3NF4

今回の2つ目は、スウェーデン（ストックホルム）の友人のHakan（Bjorkman氏）の動画です。

（本当の名前にはaの上に丸がついてたりするのですが、文字化けなどが起こらないようにするため、ここでは一般的なアルファベットのみで表記します）

彼は何年か（7、8年??）スウェーデン王立ストックホルム歌劇場の首席トロンボーン奏者を務め、数年前からスウェーデン王立放送響の首席トロンボーン奏者として活躍しています。

ソリストとしても活発に活動していて、数年前にソロCDをリリースしています（C.Lindberg氏率いるトロンボーンアンサンブル

「Trombone Unit 2000」のメンバーでもあり、CD録音やコンサートにもたくさん参加しています）。

去年（か今年だったかな?）に2枚目のソロCDを録音したのですが、もう販売されてるのかな??

（1枚目のCDの録音の様子がYouTubeに上がっているので、探してみてくださいね。「ヴェニスの謝肉祭」をTromboneで演奏してますよ!）

日本のトロンボニストたちの間では好き嫌いが分かれるスタイルかもしれませんが、素晴らしい演奏をします。

ぜひ多くの人に知ってもらいたいトロンボニストの一人です。

彼はAlto Tromboneの演奏も素晴らしく、上に書いたトロンボーン・アンサンブルでも、C.Lindberg氏と並んでよくAlto Tromboneを担当しています（ソロCDでも驚くような演奏をしています）。

最後に、彼の自由な演奏スタイルをどうぞ!!（笑）

<http://www.youtube.com/watch?v=jOVpINrOLk8>

彼は、これをソロ・コンクールのカデンツァでやって、そのときの審査員だったN.Y.フィルのJ.Alessiさんからあとで「あれは一体どうやってるんだ?」と質問されてました（笑）。

さ、Alto Tromboneの練習も頑張ろっ!（笑）

[4] 演奏のヒント!

『ちょっとしたことで』

今回は、ちょっとしたことで変わることを書いてみようと思います。

まずEuphoniumから。

Euphoniumに関してはあまりないのですが、僕の経験から言える一番大きく変化したことは、よくチューバにはあるのですが、ベルの周りにぐるっとつけるビニール製のリングです。

もともとはベルを下にして楽器を置く際に、ベルに傷が付けないようにするためのものなのですが、これ、音が変わるんですよ。

どう変わるのかというと、音が締まったり輪郭がハッキリとしたり、音が飛びやすくなってきます。

興味がある人や、それを試す機会に恵まれた人は、ぜひ一度騙されたと思って試してみてくださいね！

次はTrombone。

Tromboneはいくつかあるのですが、思いつくのを書いておきます。

まずはテナーバスやバスのロータリーについて。

これ、キャップを少し緩めると高い音がほんの少し楽に出るようになりますよ（笑）。

でも、音の芯はなくなってしまいます。

どうしても外したくない音の前で時間があり、かつ音の芯が少々ない音でも大丈夫なときに、わらにもすぎる思いでやってみるのもありかも？

このロータリーのキャップ、材質や重量等ですいぶんと吹き心地が変わることがあります。

実際に僕は、今の楽器を選ぶ時から少し軽い(?)キャップのものを使っています。

音（音色）自体が変わったりコントロールしやすくなったり、レガートがかかりやすくなったりスタッカートが思い通りに吹きやすくなったりと、いろいろな変化が出てくると思います。

メーカーによっていろいろあると思いますが、もし自分の使っている楽器のロータリーのキャップにオプションがあるようなら、一度は試して見ることをオススメしますよ！！

他には、スライドの先に付いているゴム（石突きゴム）。

これが「ある」と「ない」の、また大きなもの（重たいもの）や小さいもの（軽いもの）に変えることによって吹き心地はもちろん、音が変わります。

僕はあまり細かいことにこだわると忙しくなるのでそこまではこだわらないのですが（笑）、こだわりたい人はぜひこだわってみてくださいね。他のものに比べたら、安くこだわられますよ～（笑）。

最後に、 balanサー。

balanサーとは、チューニングスライドなどに付いている「おもり」のことです。

これを付けるか外すか。

もちろんそれをするといろいろと変わります（笑）。

ここで伝えたいことは、balanサーにもしネジなどが付いている場合の、このネジの締め具合のことです。

このネジの締め具合、かなり大切なんですよ。

どのくらいキツく、もしくはどのくらい緩めるのか、これはいろいろと試して自分に最適なものを決めてくださいね。

少しのことですぐいぶんと変わってきます！

balanサーの位置も大きく吹き心地などが変わってくるので、位置もいろいろと試してみてくださいね。

楽器は音楽演奏する上での道具の一つですが、これの具合一つですぐいぶんと音楽が変わってきます。

自分の楽器を自分ピッタリにカスタマイズして、これからの練習を楽しんでいきましょう～！！

編集後記

異常気象だと毎年言われていますが、今年も例にもれず異常気象ですね（笑）。

もう、何が通常の気象状況なのかがわからなくなってきました（笑）。

暑くなってきて困るのは、もちろん楽器を吹いている時の汗、それに伴う楽器が汗びたしになってしまうこと（銀メッキの楽器は黒ずむ大きな原因の一つとなります）。

他には、車で移動する際のあの熱・・・。

ケースを開けて楽器を持った瞬間のあの熱さには、気持ちをゲンナリさせられますね・・・（笑）。

いろいろと暑さ以外にも弊害がありますが、この暑さに負けず、いい音楽を創るために毎日頑張りましょう～！！

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com